

## 編集後記

◇ 新たな年を迎え、読者の皆様のご多幸と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

さて、1月号では特集として「いも類の新品種紹介」を掲載するのを恒例としており、本号でも新たに品種登録の出願公表がなされた6品種について、それぞれの育成者に解説いただいた。マスカットのような香りの芋焼酎ができる「霧N8-2」や、ねっとり系で甘く表皮が真っ白な「きみまるこ」など、これまでにないユニークな特性の新品種もあり、今後の普及が期待される。

◇ もうひとつの特集としては、昨年8月に開催された「異常気象（高温）による芋類の生産・利用への影響と対応に関する情報交換会」での講演内容について、ジャガイモとサツマイモについて、1テーマずつ寄稿いただいた。地球温暖化を背景に近年、国内外で異常気象が頻発しており、対応が急務となっている。最近では栽培面での基礎的な研究が少なくなっていることもあり、いずれも貴重な研究成果であるので、是非、参考としていただきたい。

◇ 昨年末、10月21日から24日までの1週間、例年どおり農水省の消費者の部屋で「さつまいも・じゃがいもの週」が開催された。今年は久しぶりにポテトチップの試食・評価のイベントも復活し、多数の方に参加いただいた。生芋や加工品の展示も好評で、サンプルの提供に協力いただいた研究機関や企業の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

◇ 11月27日に、KADOKAWAから、『『アゲもん』破天荒 ポテトチップ職人 岩井清吉物語』が出版された。主人公は老舗のチップスメーカー、(有)菊水堂の前社長で、著者の稲田豊史氏は「ポテトチップスと日本人」（朝日新聞出版）も執筆している。

我が国におけるポテトチップ業界の創世時の状況が、見事に描かれているが、書籍の中では「いも類振興情報」の記事も状況証拠としても引用されており、史実を文献として残しておくことの大切さを改めて痛感した次第である。

いも類振興情報 第162号  
2025(令和7)年1月15日発行

定価 1部 500円  
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会  
〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303  
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225  
E-mail: jrta@imoshin.or.jp  
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社